

鳴子ダム水源地域ビジョン
(中間案)

平成 17 年 11 月

鳴子ダム水源地域ビジョン策定委員会
専 門 検 討 会

目 次

1．鳴子ダム水源地域ビジョンの基本理念（案）	1
2．鳴子ダム水源地域ビジョンの基本目標（案）	2
3．鳴子ダム水源地域ビジョンの基本施策（案）	3
（1）地域を元気にする	3
（2）地域を学習する	4
（3）地域の文化を育てる	5
（4）地域の環境を守る	6
（5）まちづくりのために	7
4．鳴子ダム水源地域ビジョンの推進について（案）	8
（1）水源地域ビジョンの展開について	8
（2）水源地域ビジョンの推進について	9
（3）水源地域ビジョンの推進主体について	11
（4）水源地域ビジョンの事務局について	12
資料:鳴子ダム水源地域ビジョン策定委員会等の経過	15
（1）第1回～第3回策定委員会の意見のまとめ	16
（2）策定委員会の意見のまとめ	20
（3）専門検討会の意見のまとめ	27
（4）専門検討会名簿	31

鳴子ダム水源地域ビジョン の基本理念(案)

当初案	「豊饒なる大崎の耕土をうるおす江合川のながれ、緑たゆとう自然、鬼首の文化・風土をいかし、多彩で魅力的な活動、地域内外との交流・連携により、環境に調和した持続的な水源地域のまちづくりをすすめる。」
修正案	「豊饒なる大崎の耕土をうるおす江合川のながれ、 <u>堂々たる鬼首の山なみ・鳴子ならでは</u> の文化・風土・ <u>資源</u> をいかし、多彩で魅力的な活動、地域内外との交流・連携により、環境に調和した持続的な水源地域のまちづくりをすすめる。」

鳴子ダム水源地域ビジョン の基本目標(案)

(1) 地域を元気にする

水源地域ビジョンの目的は、水源地域を元気にしていくことです。新「大崎市」での「鳴子町」や「鬼首」地区のランドデザインをしっかりと見すえ、地域の人たちが中心になって「地域づくり」を進めていきます。このため、新「大崎市」の人たちや、江合川流域の人たちが「江合川」によってつながり、「交流」と「連携」で地域づくりを応援します。さらに既存の資源などをうまく活用して事業化を図り地域振興を進めていきます。

(2) 地域を学習する

鳴子町には、自然環境、人文社会資源をはじめ、「地域らしさ」の資源が多数あります。地域に住む人たちが地域のことをよく知らないと、来訪者との交流もなかなか生まれません。総合学習など、地域内外の学習の場として、地域の資源を、長期的に、将来像を見すえながら活用していきます。

(3) 地域の文化を育てる

地域のひとたちが地域に誇りをもちながら、地域の代表者として地域づくりに取り組む必要があります。このため、これまで受け継がれてきた風土や文化をよく学びながら、地域の価値を高め、新たな文化の創造を進めていきます。

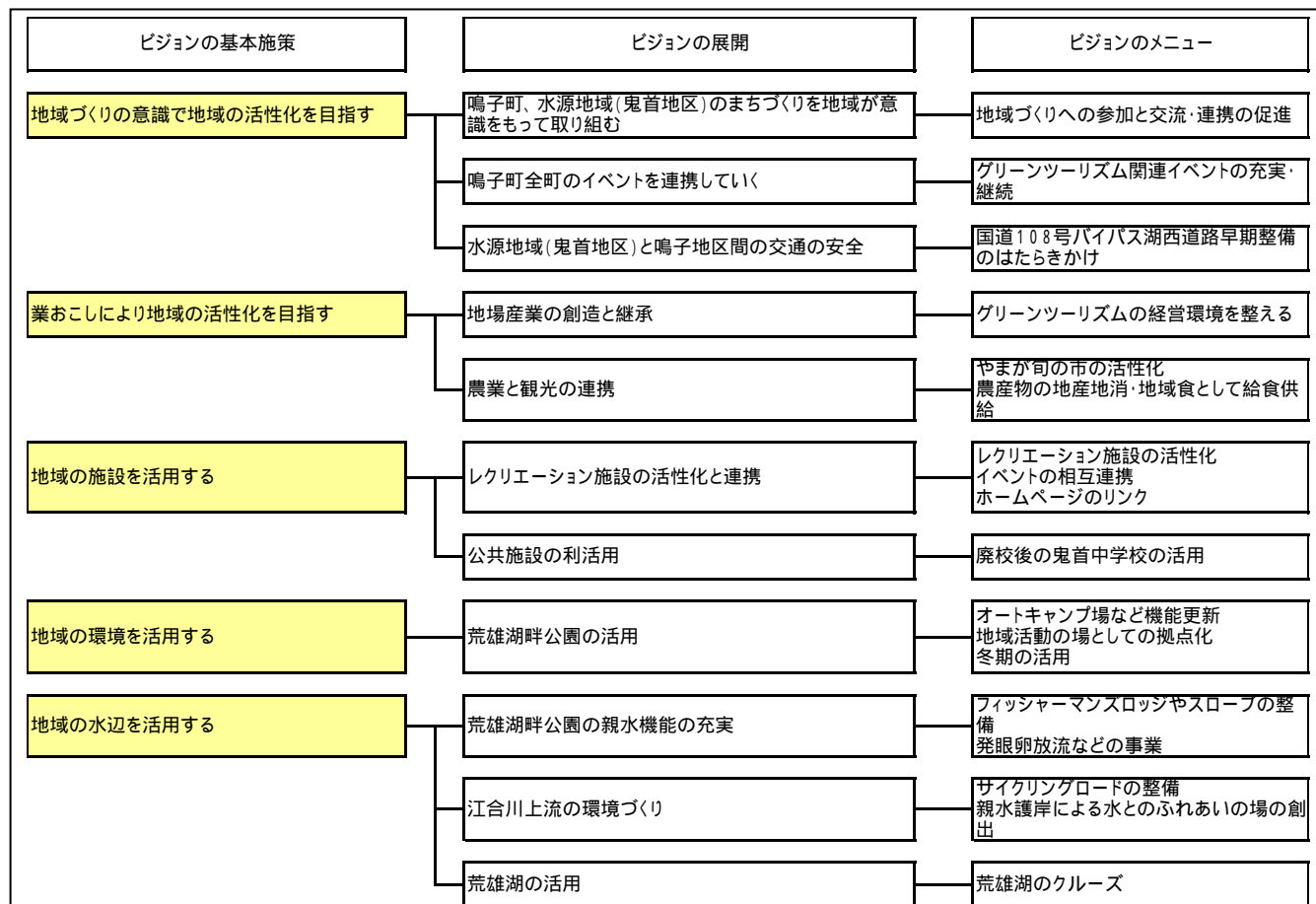
(4) 地域の環境を守る

鳴子町には、自生山の自然杉や鬼首カルデラ地形をはじめとする豊かな自然がたくさんあります。また、町営牧場、水田、畑地などの農地、鬼首地区をはじめとする農村集落など、現在の高い地域価値を維持・継承し、地域の環境を守っていきます。

鳴子ダム水源地域ビジョン の基本施策(案)

1.地域を元気にする

- (1) 地域づくりの意識で地域の活性化を目指す
水源地域のまちづくりを地域が主体となって継続的に取り組んでいきます。
- (2) 業おこしにより地域の活性化を目指す
地場産業や農業と観光の連携により地域の活性化を目指していきます。
- (3) 地域の施設を活用する
既存の地域の施設をうまく活用していきます。
- (4) 地域の環境を活用する
荒雄湖畔公園をうまく活用していきます。
- (5) 地域の水辺を活用する
荒雄湖畔公園や江合川の水辺をうまく活用していきます。



鳴子ダム水源地域ビジョン の基本施策(案)

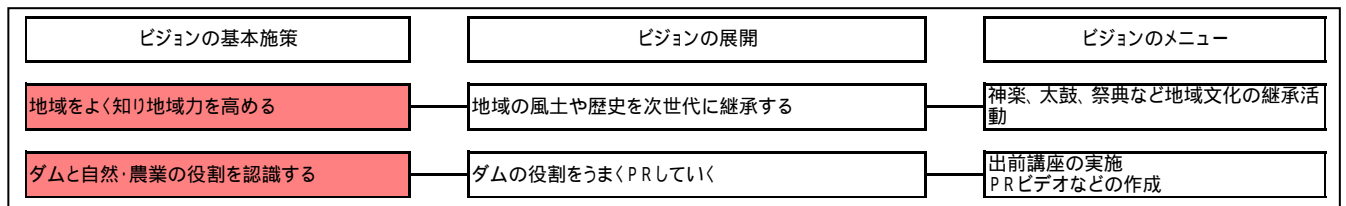
2.地域を学習する

(1) 地域をよく知り地域力を高める

荒雄川神社祭典、鬼首神楽、鬼首心鼓の会(太鼓)などの地域の風土を継承してきます。
さらに地域の資源を地域が学習し、地域力を高めていきます。

(2) ダムと自然・農業の役割を認識する

ダムの役割をうまく活用し、江合川下流域の方々と、自然・農業な側面でのつながりを高め
ていきます。



鳴子ダム水源地域ビジョン の基本施策(案)

3.地域の文化を育てる

(1) 鳴子町特有の温泉資源を活用する

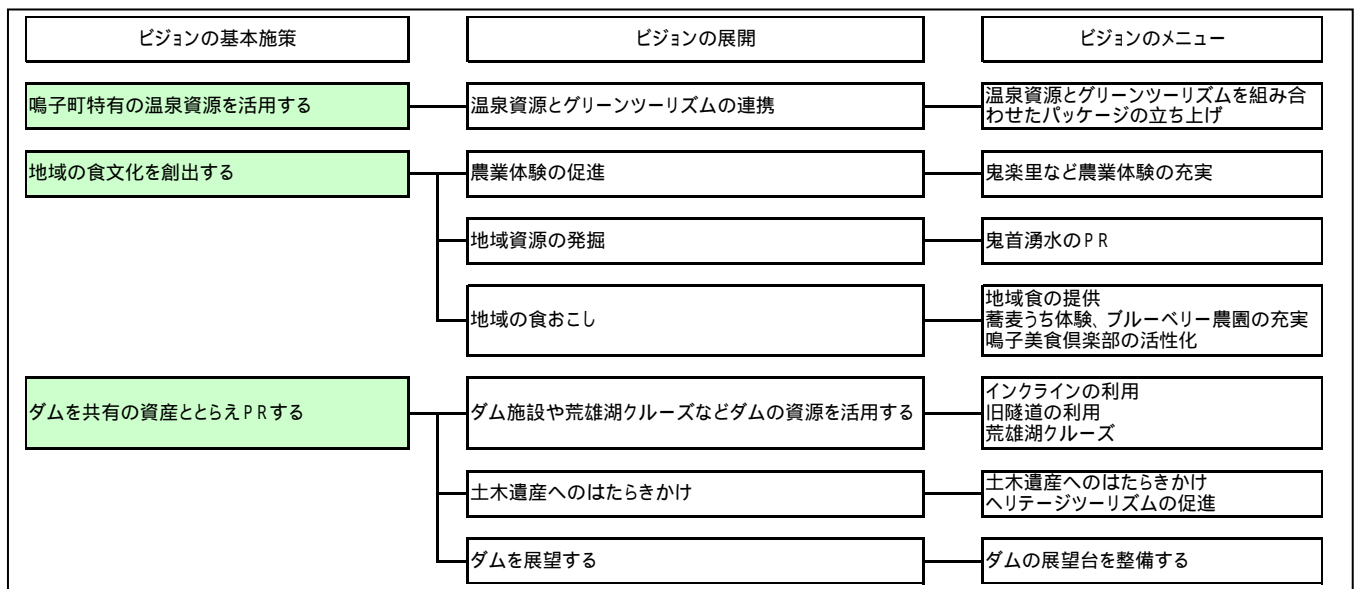
鳴子町の温泉資源を活用し、グリーンツーリズムなどとの連携により、観光業との連携を高めていきます。

(2) 地域の食文化を創出する

農業体験の充実を図り、水源地域と都会との交流を図ります。また、地域の食に着眼した取り組みを進めます。

(3) ダムを共有の資産ととらえPRする

鳴子ダムの資源を活用した取り組みを継続するとともに、鳴子ダムの見学や、鳴子ダムの展望台（新たに整備される国道108号バイパス湖西道路から）の整備を検討します。



鳴子ダム水源地域ビジョン の基本施策(案)

4.地域の環境を守る

(1) 水力や地熱発電などの環境を活用する

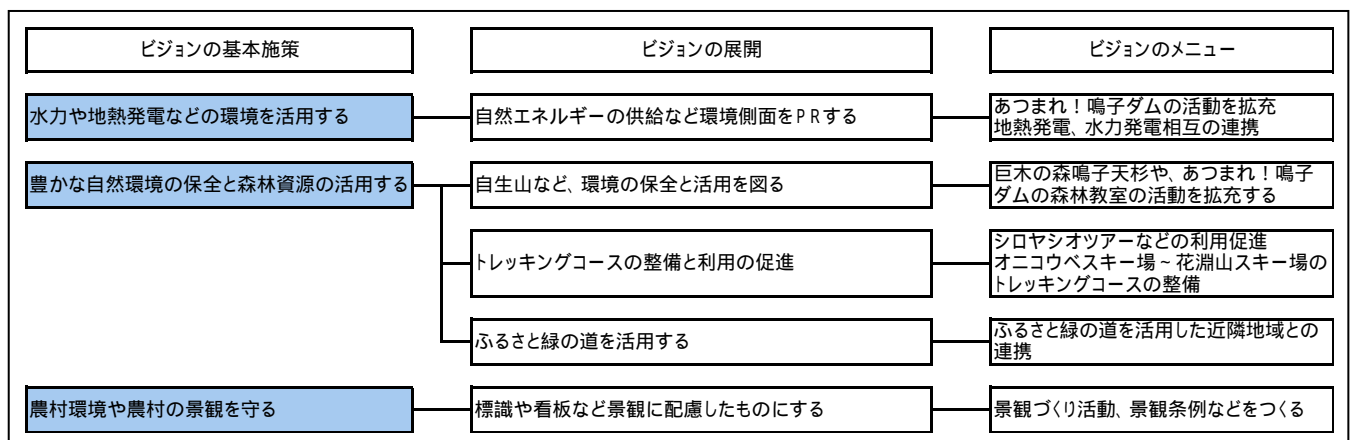
水源地域にある発電施設を、環境にやさしいエネルギーの供給地域としてPRしていきます。

(2) 豊かな自然環境の保全と森林資源を活用する

水源地域の自然環境の保全とともに、トレッキングコースなど各種施設の有効利用を行います。

(3) 農村環境や農村の景観を守る

水源地域の農村環境や景観を守り、広告や看板等のあり方を検討します。



鳴子ダム水源地域ビジョン の基本施策(案)

5.まちづくりのために

(1) まちづくりキーマン・横の連携も密に交流

水源地域内外の地域活動者間が連携して、水源地域ビジョンの推進を図ります。

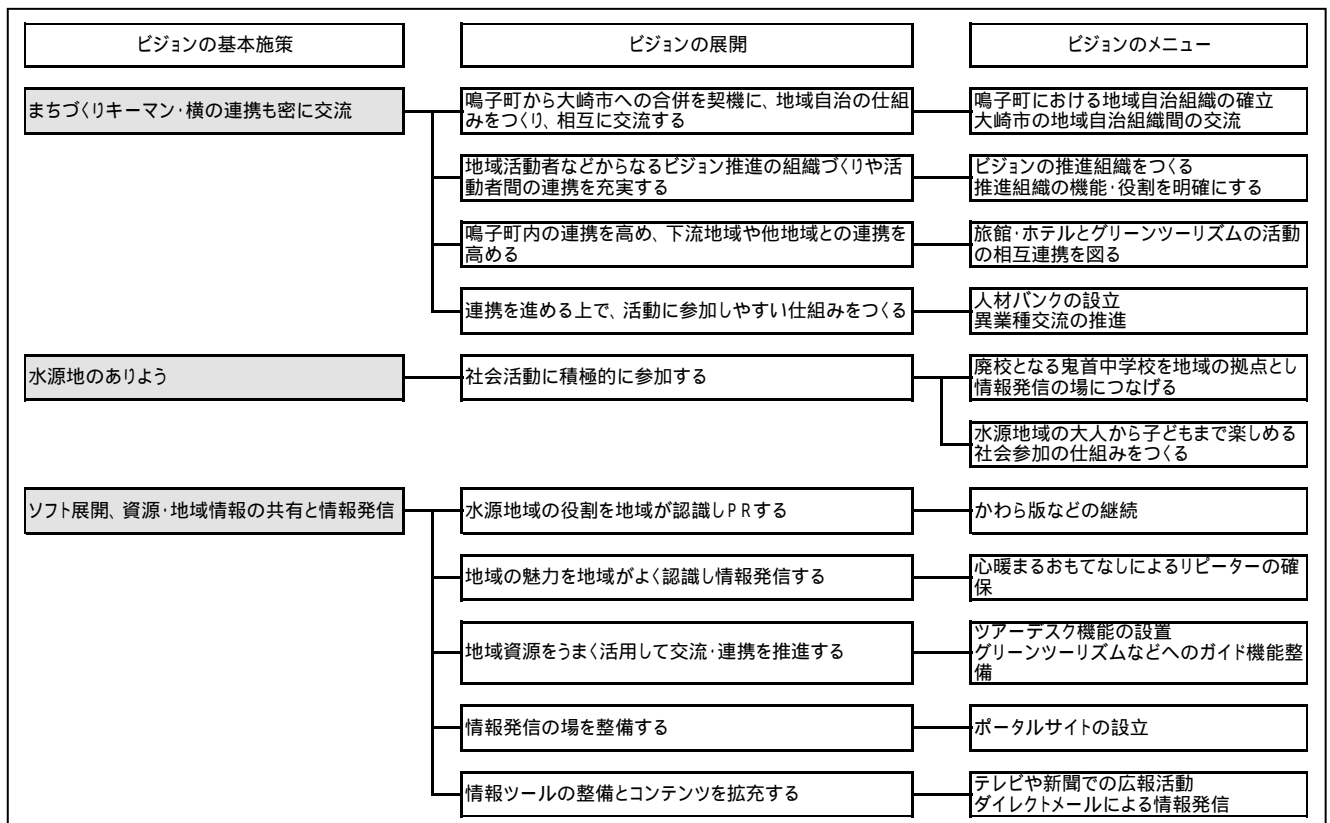
また、水源地域で活動が展開しているグリーンツーリズムと観光業との連携をつなげます。

(2) 水源地のありよう

水源地域のみなさんが、積極的に水源地域ビジョンに参加できる仕組みや、活動の場をつくります。

(3) ソフト展開、資源・地域情報の共有と情報発信

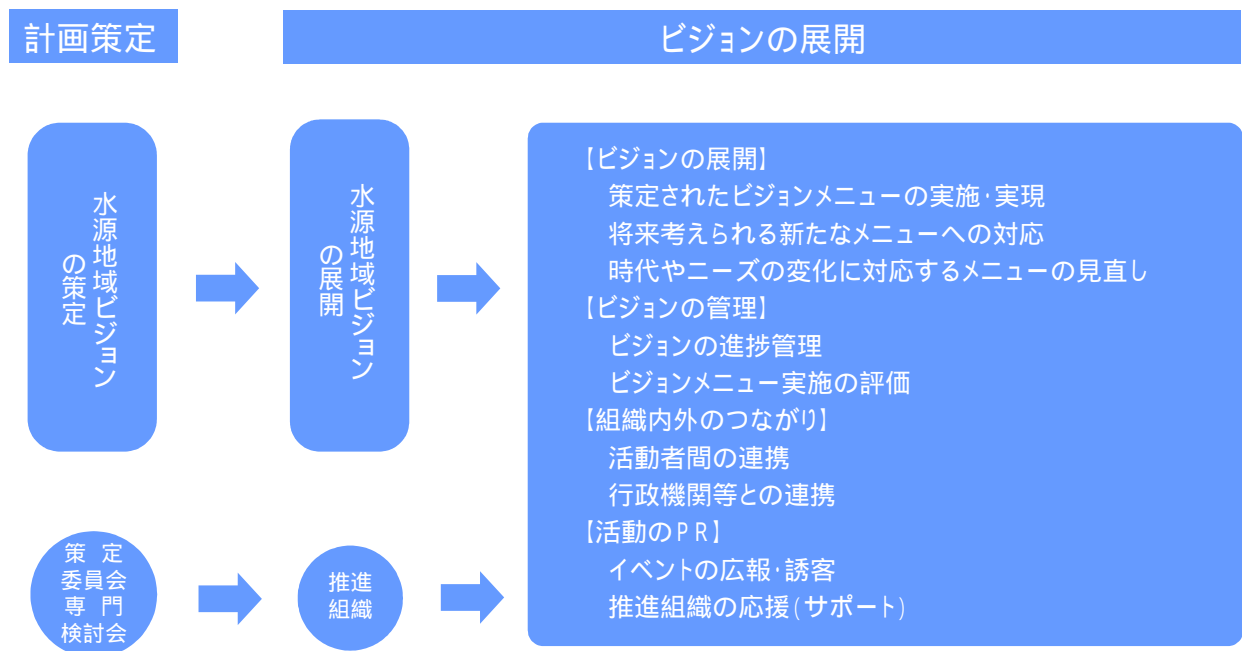
水源地域での活動や、水源地域ビジョンの推進について、一元的な情報発信を行います。



鳴子ダム水源地域ビジョン の推進について(案)

(1) 水源地域ビジョンの展開について

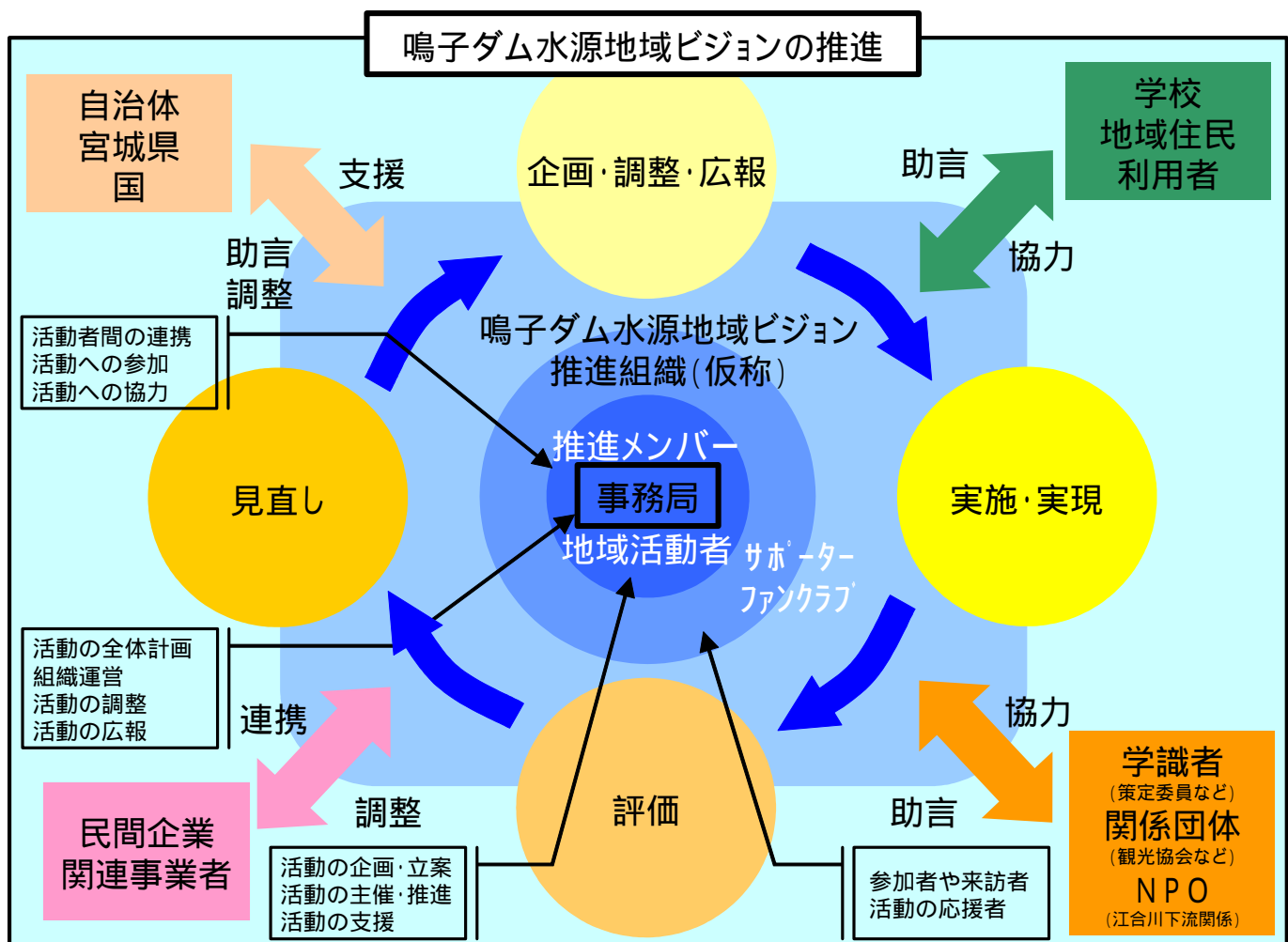
鳴子ダム水源地域ビジョンは、第3回策定委員会開催以降、ビジョンの推進を検討する「専門検討会」を設置し、その方向性を検討しましたが、推進組織では、「ビジョンの展開」「ビジョンの管理」「組織内外のつながり」「活動のPR」などの根幹的な活動を行うことが必要であると議論しました。



鳴子ダム水源地域ビジョン の推進について(案)

(2) 水源地域ビジョンの推進について

鳴子ダム水源地域ビジョンの推進においては、策定委員会から「推進組織」にバトンタッチし、水源地域の推進メンバーや地域活動者、水源地域内外のサポーターやファンクラブを両輪とした組織づくりや、事務局の設置が必要と議論しました。



鳴子ダム水源地域ビジョン の推進について(案)

<p>水源地域ビジョン推進組織</p>	<p>地域内の関連組織や団体が共通の目標をもって、同じ土台で地域づくりを行っていくための象徴ともいえる組織です。</p> <p>今後、鳴子ダム水源地域ビジョンのシンボル「地域を元気にする」等に掲げる活動は、この水源地ビジョン推進組織のもと行われることとなります。</p> <p>また、行政指導や助成制度の導入検討と、行政間連携を図りながらビジョン活動を支援していきます。</p> <p>行政及び鳴子ダム管理所は、地元の住民や地域活動団体などがビジョン活動をしたと思ったときに、迅速に対応しバックアップができるようにするため、このような組織を構築しておきます。</p>
<p>推進メンバー 地域活動者</p>	<p>有識者や専門家の助言を受けながら、活動プログラムについて協議し、実際に実行する組織です。</p> <p>この組織は、個々のビジョンメニュー毎、または活動テーマ毎に組織されるグループ(部会)の総称です。ここでは、地域内外からの自由な参加を呼びかけることとなります。</p>
<p>サポーター ファンクラブ</p>	<p>誰でも簡単に入会できる「鳴子ダム水源地域のファンクラブ」のような組織です。</p> <p>活動に自由に参加していただきます。</p> <p>この参加により交流・連携を高め、活動のすそ野を広げていきます。</p>
<p>事務局</p>	<p>ビジョン活動に関する総合窓口であり、関連情報などのとりまとめや発信も行います。</p> <p>【立ち上げ時】</p> <p>発足当初は、ビジョン推進組織(鳴子ダム管理所)に設置を検討します。</p> <p>【他ダムでの事例】(100年ビジョンかわさき：釜房ダム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局2名 ・(株)かわさき振興公社が運営支援

鳴子ダム水源地域ビジョン の推進について(案)

(3) 水源地域ビジョンの推進主体について

鳴子ダム水源地域ビジョンの推進においては、「推進組織」による包括的な運営と「事務局」による具体的活動が必要であると議論いたしました。

「推進組織」と「事務局」の役割は以下のように検討しました。

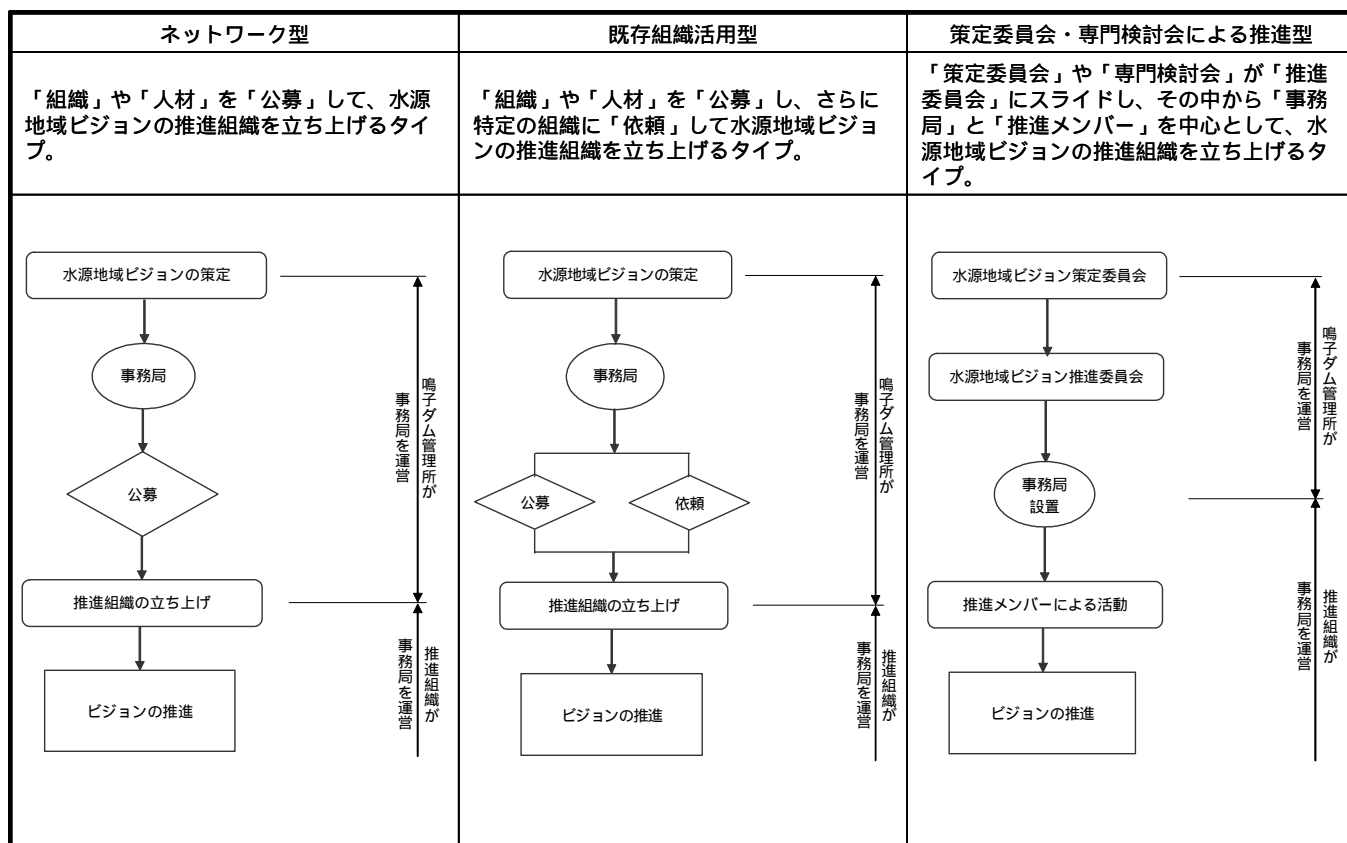
推進組織の役割	事務局の役割
<p>(1) 組織化</p> <ul style="list-style-type: none">1) 策定委員会 推進組織へバトンタッチ2) 地域活動者や関連機関を主体とした組織体をつくる3) 組織体を運営する事務局(場所・人材)を設置する。 <p>(2) ビジョンメニュー推進</p> <ul style="list-style-type: none">1) 企画・調整(plan) 水源地域ビジョンの策定 推進組織、事務局の設置2) 実施・実現(Do) 事務局・推進組織の活動への支援 推進組織間の連携を支援3) 評価(check) ビジョンメニュー達成度の評価4) 見直し・展開・支援(Action) ビジョンメニューの見直し 必要に応じた支援の実施	<p>(1) 組織づくり</p> <ul style="list-style-type: none">1) 地域活動団体との連携 定期的な連絡調整会の開催 連携ネットワークの整備2) サポーターやファンクラブの募集 広報活動による募集 イベント参加者への要請3) 人材バンク登録 地域活動団体等からの情報提供 サポーターやファンクラブの登録 <p>(2) 企画調整</p> <ul style="list-style-type: none">1) 地域活動団体や関連機関との企画調整 関係組織との企画調整 関係機関との活動調整2) 関係機関への支援 支援メニュー(補助事業等)の整理 関係機関への支援のはたらきかけ <p>(3) 広報</p> <ul style="list-style-type: none">1) 広報活動(ポータルサイトやかわら版などの発信)2) 新大崎市、下流自治体・関係機関への情報発信

鳴子ダム水源地域ビジョンの推進について(案)

(4) 水源地域ビジョンの推進体制について

推進体制づくりの方向性

推進体制づくりにおいては、「ネットワーク型」、「既存組織活用法」、「策定委員会・専門検討会による推進型」の3つの方向性を検討しました。



公募：鳴子ダム水源地域ビジョン策定にあわせ、推進組織に参加していただく組織や人材を公募する。

依頼：鳴子ダム水源地域ビジョンの「策定委員会」や「専門検討会」の委員の関係の地域活動団体等へ推進活動を依頼する。

鳴子ダム水源地域ビジョン の推進について(案)

タイプ	各案の概要	事務局の考え方	課題など	鳴子ダム管理所の支援	推進組織への参加	
					公募	依頼
ネットワーク型	<p>鳴子ダム水源地域ビジョン策定にあわせ「事務局」を立ち上げる。</p> <p>鳴子町内外の地域活動団体にネットワークに参加していただく。</p> <p>ネットワーク組織をつくり、事務局が中心となってビジョンの推進に取り組む。</p> <p>各既存組織の独自性は保たれる。各既存組織の横のつながりが期待できる。</p>	<p>ビジョン策定後、ネットワーク組織づくりまでの期間は、鳴子ダム管理所が事務局を運営する。</p> <p>ネットワーク組織づくり後、ネットワーク内に事務局を設置する。</p>	<p>鳴子町内外の既存組織の水源地域ビジョン推進に向けた合意形成</p> <p>水源地域ビジョン施策と既存組織間の調整</p> <p>ビジョン推進活動に参画する人の固定化</p> <p>組織や人材間でのビジョン推進に対する意識づくり（推進組織への帰属意識づくり）</p>	<p>ネットワーク組織づくりまでの事務局の運営</p>		
既存組織活用型	<p>鳴子ダム水源地域ビジョン策定後、鳴子町内外の既存組織に、ビジョン推進の活動に取り組んでいただく。</p> <p>既存組織がビジョン推進のための役割を担う。</p>	<p>ビジョン策定後、事務局は鳴子町内外の既存組織に移行する。</p>	<p>鳴子町内外の既存組織の水源地域ビジョン推進に向けた合意形成</p> <p>鳴子町内外の既存組織活動の独自性維持</p> <p>鳴子町内外の既存組織の対応力（資金・人材）</p> <p>推進活動を担っていただく鳴子町内外の既存組織の選定</p> <p>既存組織以外のビジョン推進への参加の仕組みづくり</p> <p>推進組織としての「公益性」の確保</p> <p>行政機関や各種団体、民間企業・関連事業者、学校等との調整</p>	<p>既存組織への事務支援</p>		
委員会移行型	<p>鳴子ダム水源地域ビジョン策定後、策定委員会及び専門検討会を、推進委員会として組織化する。</p> <p>推進委員会の中から、水源地域ビジョンの施策を展開する「推進メンバー」を組織化する。</p>	<p>推進委員会（「推進メンバー」）の中から、事務局を設置する。</p>	<p>策定委員、専門検討会での水源地域ビジョン推進に向けた合意形成。</p> <p>策定委員、専門検討委員以外のビジョン推進への参加の仕組みづくり。</p>	<p>事務局の一員としての運営支援</p>		

鳴子ダム水源地域ビジョン の推進について(案)

(5) 水源地域ビジョンの事務局について

水源地域ビジョンの事務局は、活動の「立ち上げ時」と「安定時」に、それぞれ以下のような主体が取り組むことと議論しました。

	イメージ	立ち上げ時	安定時	策定委員会・専門検討会などとの関連
事務局	推進メンバー			鳴子町観光協会(高橋委員) 鬼首温泉観光協会(高橋委員・阿部事務局長) 玉造商工会鳴子支部副会長(遊佐委員)
	地域活動者			鬼首農地開発農業振興組合(後藤委員) 鳴子町石ノ梅町づくり創造研究会/鳴子楽郷の会(板垣委員) (株)鬼首リゾートシステム(向田委員)
	事務機能	鳴子ダム管理所		鳴子町中央公民館(大沼委員) 鳴子ツーリズム研究会 新大崎市 鳴子ダム管理所
鳴子ダム推進組織	学識者			森杉委員長、平野委員、志賀委員、吉川委員
	関係団体			母なる北上川を愛する女性の会(毛利委員) すばらしい涌谷を創る協議会(古澤委員)
	NPO			
	民間企業			(株)大崎タイムス社(伊藤委員) 東北電力(株)(田中委員)
	学校			鳴子町立中山小学校(岸委員)
	地域住民			鳴子町住民(高橋委員)
	利用者			
	関連事業者			大崎土地改良区(齋藤委員) 鳴子漁業協同組合(高橋委員)
	自治体			古川市、岩出山町、田尻町、鳴子町(新大崎市)
	宮城県			宮城県古川土木事務所
国			宮城北部森林管理署 東北地方整備局、北上川下流河川事務所 鳴子ダム管理所	

鳴子ダム水源地域ビジョン 策定委員会等の経過

	日 時	場 所
第 1 回策定委員会	平成 17 年 1 月 26 日 (水)	鳴子ビューホテルかねちゅう
第 2 回策定委員会	平成 17 年 3 月 23 日 (水)	鳴子ホテル
第 3 回策定委員会	平成 17 年 5 月 31 日 (火)	ホテルオニコウベ
第 1 回専門検討会	平成 17 年 7 月 29 日 (金)	鳴子ビューホテルかねちゅう
第 2 回専門検討会	平成 17 年 10 月 6 日 (木)	鳴子ビューホテルかねちゅう
第 3 回専門検討会	平成 17 年 11 月 9 日 (水)	鳴子ビューホテルかねちゅう

(1) 第1回～第3回策定委員会の意見のとりまとめ(1/3)

まちづくりの方針		「まちづくりに」いかにせる資源		策定委員会での意見
		地域の資源など	地域での活動など	
地域を元気にする	地域づくりの意識で地域の活性化を目指す	鳴子町全域	鳴子温泉郷ツーリズム特区の指定	合併による地域間交流促進 広域観光上での戦略づくり 温泉をアピール 合併を契機に観光地間の連携 中下流とのかかわりや、つながり
		鳴子地区	鳴子温泉郷湯めぐり手形	
		鬼首基幹集落センター	学校開放講座パソコン教室 ちびっこ料理教室 鬼首自然観察隊	グランドデザインづくり 鬼首地区の活性化 川による連携・合併による連携
		鳴子町中央公民館(鳴子地区)	第2回グリーン・ツーリズムネットワークみやぎ鳴子大会 スローライフ週間「湯ったり湯ったり湯たかに」 交流人口拡大事業「Visitなるこ」	連携・交流のキーワードと地域活動の立ち上げ
		鳴子町ヘルスセンター(鳴子地区)	鳴子ツーリズム講座(講演会)	
		国道108号		湖西道路(国道108号バイパス)の早期整備
		JR陸羽東線	イベント列車SL義経号	
		鬼首基幹集落センター	曲げわっぱの特別展示、桶細工、つる細工	鬼首地区の活性化
		鬼首の里高原市場	鬼首ば道場蕎麦打ち体験	地産地消で地域を活性化
		鬼首の里高原市場	農産物の直売	旅館・ホテルとグリーンツーリズム活動の相互連携
	やまが旬の市	農産物の直売		
	ブルーベリー生産組合	摘み取り農園		
	国民宿舎鬼首ロッジ	農業体験「鬼首・鬼菜里」		
	JAIいわてやま鳴子りんどう部会の生産地	りんどう生産・出荷		
	ほっとサロン(鳴子地区)	一店逸品運動研究会「てっぺクラブ」	地域力の向上	
	オニコウベスキー場・ゴンドラ・ゴルフ場	鳴子牛cowニバル スキースクール、蕎麦打ち体験など スノーフェスティバル		
	吹上高原キャンプ場			
	鬼首ペンション村			
	鬼首基幹集落センター	小学生の蕎麦栽培の収穫祭		
	鬼首中学校		廃校後の活用	
	JR陸羽東線や国道108号		アクセス(サービス)の改善	
	地域の環境を活用する	荒雄湖畔公園	フィッシング・ジャンボリー・イン・オニコウベ あつまれ! 鳴子ダム キャンプ場や運動場など各種広場 ラジコンカーレース	利用しやすい公園に 活動の拠点づくり オートキャンプなど機能更新 冬季の活用(雪洞体験)
	地域の水辺を活用する	荒雄湖畔公園		
	地域の水辺を活用する	荒雄町営牧場		
	地域の水辺を活用する	江合川上流(鳴子ダム上流)	キャッチ&リリース(鳴子漁協) 雑魚卵放流(鳴子漁協) 桜の植樹 江合川源流の碑	釣り人へのサービス向上 江合川の環境整備 (サイクリングロード整備など) 地域をよく知る
	地域の水辺を活用する	荒雄湖(ダム湖)		ダム湖・ダム堤体を眺望できるスポットの整備(湖西道路側からも)

第1回～第3回策定委員会の意見のとりまとめ(2/3)

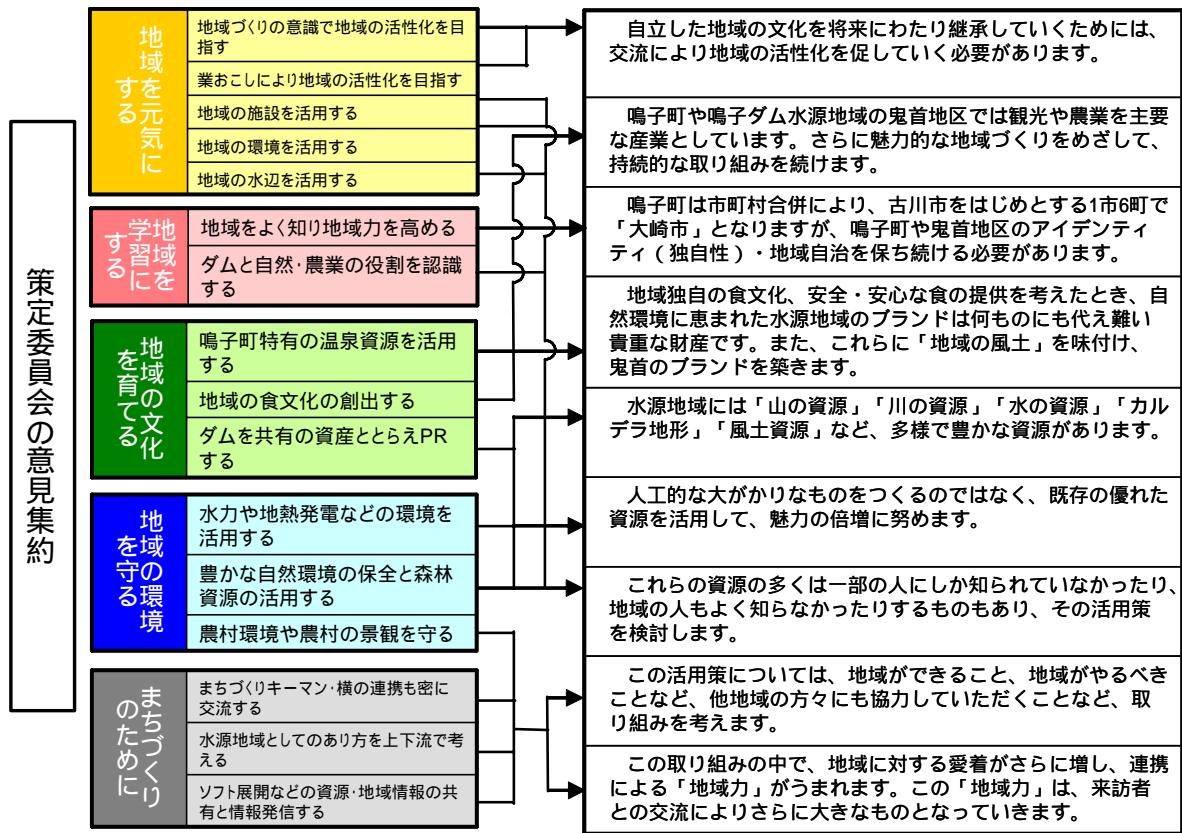
まちづくりの方針		「まちづくりに」いかせる資源		策定委員会での意見	
		地域の資源など	地域での活動など		
地域を学習する	地域をよく知り地域力を高める	鬼首カルデラ地形		地域に誇りをもつ	
		放射環状に流れる江合川上流		地域力の向上	
		鬼首基幹集落センター	鬼首神楽講演活動	地域をよく知る	
		鬼首中学校	江合川の水質調査		
		荒雄川神社・主馬神社	荒雄川神社祭典		
		鬼首番所跡・芭蕉句碑・大町桂月歌碑			
		山の神の石碑	石碑、鳥居の建立(なるこ未来創造会議)		
ダムと自然・農業の役割を認識する	鳴子ダム	鳴子ダム見学	ダム利水と下流の水田の関係		
地域の文化を育てる	鳴子町特有の温泉資源を活用する	温泉(宮沢・吹上・轟)		温泉と健康の関係をアピール	
		東鳴子温泉(川渡地区)	現代版湯治入門		
		鳴子温泉(鳴子地区)	温泉療養プラン 温泉客ら無農薬栽培体験	グリーンツーリズム、温泉医療もキーワードに 旅館と農業の関係づくり スキーと温泉における来訪者のニーズをつかむ	
	地域の食文化の創出する	鬼首そば生産組合	蕎麦打ち体験	美味しい蕎麦など地域の食文化の向上	
		鳴子の風	地発地産の生産・販売	地産地消で地域を活性化	
		江合川上流	鬼首の湧水 岩魚・山女など	来訪者に地元食材を提供する	
	ダムを共有の資産ととらえPRする	鳴子ダム		ダム見学	ダムの役割を再認識 川やダムのことを知る環境づくり 学校教育で展開、パンフ配布 スローライフ「夏編」
				すだれ放流	すだれ放流などのPR
				ダムアーチ構造	土木遺産に
				ダム展望台	ダム湖・ダム堤体を眺望できるスポットの整備(湖西道路側からも)
地域の環境を守る	水力や地熱発電などの環境を活用する	鬼首地熱発電所	地熱発電所PR館	水力・地熱発電など環境をテーマに展開	
		鳴子発電所			
		片山地獄・地獄谷			
	豊かな自然環境の保全と森林資源の活用する	間歇泉・吹上高原			
		自生山及び天然杉・巨木の森	あつまれ鳴子ダム! 巨木を営む森鳴子天杉	森林資源の再認識	
		貴重な植物群落(片山地獄周辺など)			
		花洲山及び遊歩道・お花畑(シロヤシオ)		森林浴・トレッキングなどの環境整備	
		オニコウベスキー場・ゴンドラ・ゴルフ場	大柴山トレッキング		
	農村環境や農村の景観を守る	花立峠・国見峠			
		荒雄岳及び外輪地形		自然林の復活	
ふるさと緑の道(鳴子温泉～鬼首)					
	ふるさと緑の道(鬼首～鎌内)				
	鬼首地区など既存の地域や集落	スローライフ週間「湯っけり湯ったり湯たかに」	国道沿いの標識や看板などのサインを統一(色彩・形状など)		

第1回～第3回策定委員会の意見のとりまとめ(3/3)

まちづくりの方針		「まちづくりに」いかにさせる資源 地域の資源など	策定委員会での意見
まちづくりのために	まちづくりキーマン・横の連携も密に交流する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳴子町中山間地域活性化推進協議会 ・ 鳴子ツーリズム研究会 ・ 鳴子未来創造会議 ・ 石ノ梅まちづくり研究会 ・ 鳴子楽郷の会 ・ 東鳴子夢会議 ・ 縄文集団「鬼」 ・ カム口企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合併を契機としたまちづくり ・ 地域間交流は合併後の「大崎市」が主体となるので、近隣地域へのPRが必要 ・ 合併後も、地域のよさを継承していくことが必要 ・ 情報発信では交流できない、人と人のうごきがあっての交流なので、そのための魅力づけをしていくことが必要 ・ 地域活動団体の連携を図り、一元的に推進してはどうか ・ 情報を共有するための定期的な活動や、町のコンシェルジュ(案内人)として、観光をはじめとする情報を提供していくことが必要 ・ 合併を契機に観光地間の連携も必要である ・ ビジョンづくりは、鳴子町がコアとなり、鳴子ダムと江合川流域とのつながりで、合併を契機に盛りたてていく【ビジョン推進の組織づくり】 ・ ビジョンを推進していく組織作りが必要 ・ 下流域などとの連携 ・ 鳴子町内の地域活動や事業活動をうまく連携させ、将来の地域像を見すえ、鳴子町、大崎市、下流域と広がりを持たせるビジョンづくりが必要である ・ 鬼首 古川の交流(買い物なども含む)は多いが古川 鬼首の交流は少ないので、相互の交流をつくれないうかが ・ 水源地域(鳴子町)は地域活動や資源が豊富なことによりビジョンの方向性はみえてきたが、中下流とのかかわりや、つながりを示していくことが必要である ・ ダムがなかった時の状況を下流域に説明する場を計画 【地域活動の課題】 ・ リーダーに地域活動が委ねられている ・ 行動費の捻出(参加料からの運営) ・ 企画立案、プログラム展開、広報など、さまざま分野での連携のしくみがやや低い ・ インストラクターなど人材がなかなか集まらない 【参加のしくみづくり】 ・ 地域の方々で地域活動に参加していく仕組みや体制をつくる ・ 旅館と農業(地元産物の食材化)などにより両者の関係をつくる ・ 来訪者との交流するスタイルを観光的な視点でとらえ、ものごとに取り組んでいく ・ 旅館・ホテルとグリーンツーリズム活動の相互連携が必要 ・ グリーンツーリズムのサービス提供と地域経済(地域がうらやう)の仕組みの検討 ・ ボランティア活動と事業活動の識別 ・ インストラクターなどを人材バンクに登録する ・ 地域の方々とうまく情報を伝達する
	水源地域としてのあり方を上下流で考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳴子町への来訪者ばかりでなく、水源地域内外の大人から子どもまで楽しめるような仕組みづくりが必要 ・ 水源地域が主体で、地域の人々が前向きに活動して地域をつくりあげていく ・ 廃校となる鬼首中学校を地域、教育、産業などをキーワードとする情報発信の場につなげる ・ 川やダムのことを知る環境づくり(川に親しむなど)を行う ・ 水源地域の自治や社会活動の維持、高齢化や過疎化への対応が必要である ・ 水、川、ダム、水源地域での生活など、本来の水源地域のあり方もビジョンに取り込んでいく 	

まちづくりの方針		「まちづくりに」いかにさせる資源 地域の資源など	策定委員会での意見
まちづくりのために	ソフト展開などの資源・地域情報の共有と情報発信する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回グリーン・ツーリズムネットワークみやぎ鳴子大会 ・ スロライフ週間「湯っけり湯ったり湯たかに」 ・ 交流人口拡大事業「Visitなご」 ・ 鳴子ツーリズム講座(講演会) ・ 交流の達人(宮城県企画部)板垣幸寿氏、向田晃氏 ・ 体験交流型観光セミナー ・ 大崎・最上・雄勝の地域おこしを考えるリレーションポジウム ・ 食と観光シンポジウム ・ スリーライン・ツイン・ホッツスプリングス(宮城・山形観光推進協議会) ・ 農家ネット(地産地消) ・ “鳴子ビート”による「よさこい」 	<ul style="list-style-type: none"> 【PR活動】 ・ 鳴子町には、さまざまな資源や特色ある活動が行われているが、あまり知られていないようで、戦略的にPRしていく必要がある ・ 地域活動のPRについては継続的に情報発信を行い、情報が水源地域全体に定着するPR手法が必要 ・ 地域の人々が地域のセールスマンになるような意識づくりで取り組むことが必要 ・ 心あたたまるおもてなしでリピーターをつかまえる ・ 温泉のブランドではなく地域のイメージをウリにしている ・ 鳴子ダム水源地域ビジョンづくりを新聞やテレビ番組で報道してもらい、広くPRしていく ・ 来訪者へのサービスの維持が必要 ・ 商品化という引き出しを一杯持って、お客さんに約束したサービスを提供する 【情報ツールの整備】 ・ インターネット各サイト間のリンクにより情報を共有して発信していく ・ 「水源地域ビジョン」というポータルサイトを作り総合的に情報を共有し発信する ・ テレビ、新聞などさまざまなメディアでの情報発信する ・ ツアーデスクや、コンシェルジュによるガイド案内 ・ 駅など主要地点からの情報発信する(構えがあるだけでは機能が低い) 【何をPR】 ・ 水源地域に降り積もった一握りの雪が川に流れダムに貯まる、そのような「水の循環」なども、実際に訪れて体感してもらおう ・ 水源地域のもつ資源を「森林セラピー(医療療法)」などで活用し、自然の役割や機能を体感してもらおう ・ 江合川上流でのブナの苗木の植林など地域環境の保全活動 ・ 鳴子町内の温泉街の回遊性(湯めぐり手形など)、観光協会が取り組んでいる温泉療養プランなど、鳴子ならではの特色をもった活動をPRしていき、地域の元気に近づけていく ・ 食材を活用して鳴子ならではのブランドを展開、品質を保证する ・ 来訪者に地元食材を提供する 【誰に楽しんでもらうか】 ・ 地域内外の人、年齢層、趣向などに対応するプランづくりが必要(釣り、山菜採り、水遊びなどファミリー層がみんな楽しめるようなもの) ・ インターネットや各種情報媒体に頼らない人と人の交流も大事である。 【潜在資源をいかに】 ・ スキーに行く(スキー主体)と温泉につかりスキーにも行ける(温泉主体)など来訪者のニーズをうまくつかむ ・ ダムも地域活動も風土も資源であり、これらをうまく見せ、今の取り組みをふくらませていく ・ “鳴子ビート”による「よさこい」などでの宣伝も連携につながっていく

策定委員会の意見のとりまとめとコンセプトメイキング



(2) 策定委員会の意見のまとめ

1) 第1回策定委員会(平成17年1月26日(水))での意見

[水源地域のありよう]

ビジョンにおいては、水源地域である鬼首地区のランドデザインづくりという取り組み方が必要。

利水、治水など、鳴子ダム役割は高いが、一方で水源地域は人口が減少しており、今般の市町村合併を通して、大崎市として地域間を強く結んでいく必要がある。大崎市は合併後14万人となり、このスケールも活かしたい。

地域自治組織を位置づけ、鬼首地区の地域活動を進める必要がある。地域の元気は大崎市の元気につながる。

地域に住んでいる人が地域の良さをわからないと、よそから来た人に自分たちの地域の良さを説明できない。学校教育などで学習する機会が必要。

鬼首中学校が廃校になるため、今後の活用策を考えていく必要がある。

地域の人々が主体となってビジョンづくりを進める必要がある。交流・連携などの事業展開も、地域の人々がうまく利用するというスタンスが必要。

地域振興などを目的として、「観光」「交流」という言葉がよく使われるが、人を呼び込むためには、地域が人を呼び寄せる「能力」を身につけなくてはならない。一方的に人が来るのは「交流」ではなく「直流」である。地域の人々が地域に誇りを持ち、地域をよく知らなくてはならない。

江合川の源流部の石碑やダムサイトの感謝の碑など、地元の人も分からないくらい江合川や鳴子ダムに関する認識が薄れているので、子どもから大人まで、地域をよく学び、合併を契機として、川によりつながっているという意識形成を図るべき。

[水源地域の環境について]

個人所有の山林や国有林など、森林資源の保全などの意識が非常に低くなっており、人々が森林に興味を示し、親しみもてる自然林の復活を目指していく必要がある。

森林浴等、観光客が山の中まで入っていける仕組みづくりが必要である。

ダムを拠点に花淵山などにつながるトレッキングコースを整備し、山登り等のお客さんの要望に対応したい。

江合川の環境という視点で上流では下水道の整備が必要。

[鳴子ダムについて]

ダムの役割などについて認識し、学校教育の場で展開していく必要がある。校外学習の場ととらえPRしていく必要がある。

ダムに親しみをもって集まってくる人が少なくなっている。

すだれ放流は見事だが、知らない人も多く、PRが必要。

鳴子ダムは、アーチ形状など、東北地方で一番美しダムで、これも資源の一つとして活かす

べき。

産業観光という形態があり、鳴子ダムの場合は、日本人が初めて造ったアーチダムとしての価値や、その機能・役割などもきちんと評価し、産業資産として価値観をもたせるような取り組みも必要。

〔 水源地域と江合川流域や各地域とのつながりについて 〕

鳴子ダム水源地域の鬼首地区は、秋田に向かうルート上にあり、広域での観光戦略づくりが必要。

「北上川という大きな川（江）と合う川」で江合川といわれるように、川を通じて交流が活発になればすばらしい。

森は海の恋人というように、江合川を通して、森（鬼首地区）は海（石巻市）までつながっている。この意識を高めれば交流人口も増えるだろう。

江合川流域沿いの「まち」がつながり、一つの「まち」としてがんばっていく必要がある。ビジョンは、上流と下流の交流、水と人と温泉などをキーワードに、いろいろな組織を立ち上げて展開すべき。江合川を中心に人々の組織がたちあがればよい。グリーンツーリズムの活用など広がりをもってもらえれば発展していくのではないか。

江合川流域内外との交流活動が必要。

多くの方々に目的をもって鬼首に来てもらい、自然に触れ合ってもらいたい。

〔 荒雄湖畔公園や江合川について 〕

荒雄湖畔公園は何ができる公園なのかがわからない。もっとわかりやすく情報を発信していくべき。

キャンプ場があるが、最近はオートキャンプ場が主流なので、これらに対応してほしい。

冬期間の雪を使った観光（雪洞体験）を考えてはどうか。

近年は釣りのスタイルも変わり、休憩機能などのニーズが高いので、釣り人のため、トイレやレストハウスなどを整備してはどうか。

水に親しめる空間や、サイクリングロードなどを整備して、環境づくりを進めてはどうか。

〔 鳴子ダムや水辺と親しむ・眺望する 〕

ダム湖周辺の景色、すばらしさは下に降りないと見えない。ダムを見せるための駐車場整備などをすべき。

鳴子ダムの場合、ダムを眺望できる場所が小規模なので、今後整備される湖西道路などからの眺望地整備も必要ではないか。

〔 水源地域ビジョンのさまざまな視点について 〕

ダムの発電、地熱発電など、環境をテーマとしたエコツーリズム、グリーンツーリズムの観光を展開してはどうか。

水源地域の「魅力」の情報発信、温泉の良さ、森林浴などによる癒し、教育、医療などをキーワードとして展開してはどうか。

蕎麦など、「食」も一つの魅力となろう。

〔 鳴子温泉というイメージから 〕

脚気（かっけ）川渡、瘡（かさ）鳴子といわれるように、温泉の効力をもっとPRしたらどうか。

鳴子温泉は体に良いことをもっとPRしていくべき。

2) 第2回策定委員会(平成17年3月23日(水))での意見

[水源地域のありよう]

鳴子町への来訪者ばかりでなく、水源地域内外の大人から子どもまで楽しめるような仕組みづくりが必要

水源地域が主体で、地域の人が前向きに活動して地域をつくりあげていく

廃校となる鬼首中学校を地域、教育、産業などをキーワードとする情報発信の場につなげる

[地産地消で地域を活性化]

地域の農産物(根菜類、蕎麦など)を地域内で流通し地産地消につなげ、水源地域の活性化につなげる。

地域の食材を学校の給食に提供し、子ども達に地域食材のよさを継承していく

地産地消で地域が活性化するうえでは、生産者の能力に見合った対応も必要

[誰に楽しんでもらうか]

地域内外の人、年齢層、趣向などに対応するプランづくりが必要(釣り、山菜採り、水遊びなどファミリー層がみんなで楽しめるようなもの)

[PR活動が大事]

鳴子町には、さまざまな資源や特色ある活動が行われているが、あまり知られていないように、戦略的にPRしていく必要がある

地域活動のPRについては継続的に情報発信を行い、情報が水源地域全体に定着するPR手法が必要

地域の人が地域のセールスマンになるような意識づくりで取り組むことが必要

[何をPRしていく]

水源地域に降り積もった一握りの雪が川に流れダムに貯まる、そのような「水の循環」なども、実際に訪れて体感してもらう

水源地域のもつ資源を「森林セラピー(医療療法)」などで活用し、自然の役割や機能を体感してもらう

江合川上流でのブナの苗木の植林など地域環境の保全活動

鳴子町内の温泉街の回遊性(湯めぐり手形など)、観光協会が取り組んでいる温泉療養プランなど、鳴子ならではの特色をもった活動をPRしていき、地域の元気につなげていく

[横の連携も密に交流]

地域間交流は合併後の「大崎市」が主体となるので、近隣地域へのPRが必要

合併後も、地域のよさを継承していくことが必要

情報発信では交流できない。人と人のうごきがあつての交流なので、そのための魅力づけをしていくことが必要

地域活動団体の連携を図り、一元的に推進してはどうか

情報を共有するための定期的な活動や、町のコンシェルジュ（案内人）として、観光をはじめとする情報を提供していくことが必要

ビジョンを推進していく組織作りが必要

〔 活動の拠点づくり 〕

荒雄湖畔公園を活用して、現在の運動機能や休養機能に、産直販売や情報発信などの機能を充実して拠点化してはどうか

〔 アクセスの改善 〕

湖西道路などインフラ整備が必要だが、鳴子町や鬼首地区に来やすいアクセス確保・提供が必要

〔 ダムの役割・ダムの活用 〕

ダムへの来訪の機会が薄れており、総合学習のため、児童用のパンフレットやビデオなどの教材を作成し、PRしてはどうか。

スローライフ週間冬編に続き、鳴子ダムを拠点とした「夏編」の活動を計画しており、四季を通して活動するようなメニューづくりが必要

3) 第3回策定委員会(平成17年5月31日(火))での意見

地域活動の状況

協力・協賛(鳴子町、やまが旬の市、鳴子ダム管理所)のもと、フィッシングジャンボリー・イン・オニコウベを開催できた。イベントは大人から子供まで好評(イワナつかみ取り、湖水クルージング)で、参加者にゴミ拾いもしてもらった。

地域活動者の計画

スローライフ「夏編」を計画。温泉街、森、川をステージにイベントを計画。ダム付近でのコンサート開催も検討している。

潜在する資源をうまくいかす

スキーに行く(スキー主体)と温泉につかりスキーにも行ける(温泉主体)など来訪者のニーズをうまくつかむ。

ダムも地域活動も風土も資源であり、これらをうまく見せ、今の取り組みをふくらませていく。あるがままの姿を磨く。

地域活動の課題

リーダーに地域活動が委ねられている。

行動費の捻出(参加料からの運営)。

企画立案、プログラム展開、広報など、さまざま分野での連携のしくみがやや低い。

インストラクターなど人材がなかなか集まらない。

地域の方々が地域活動に参加していく仕組みや体制をつくる。

地域情報の共有、地域からの情報発信・地域への情報発信

インターネット各サイト間のリンクにより情報を共有して発信していく。

インストラクターなどを人材バンクに登録する。

「水源地域ビジョン」というポータルサイトを作り総合的に情報を共有し発信する。

テレビ、新聞などさまざまなメディアでの情報発信する。

地域の方々にうまく情報を伝達する。

インターネットや各種情報媒体に頼らない人と人の交流も大事である。

“鳴子ビート”による「よさこい」などでの宣伝も連携につながっていく。

来訪者へのサービス提供

ツアーデスクや、コンシェルジュによるガイド案内。駅など主要地点からの情報発信する(構えがあるだけでは機能が低い)。

旅館・ホテルとグリーンツーリズム活動の相互連携が必要。

グリーンツーリズムのサービス提供と地域経済(地域がうるおう)の仕組みを検討。ボランティア

ア活動と事業活動の識別。来訪者へのサービスの維持が必要。
商品化という引き出しを一杯持って、お客さんに約束したサービスを提供する。

地域のウリをつくろう

食材を活用して鳴子ならではのブランドを展開。品質を保证する。
旅館と農業(地元産物の食材化)などにより両者の関係をつくる。来訪者に地元食材を提供する。
心あたたまるおもてなしでリピーターをつかまえる。
温泉のブランドではなく地域のイメージをウリにしていく。

鳴子ダム水源地域ビジョンの目標や展開(交流や連携)

水、川、ダム、水源地域での生活など、本来の水源地域のあり方もビジョンに取り込んでいく。
ビジョンづくりは、鳴子町がコアとなり、鳴子ダムと江合川流域とのつながりで、合併を契機に盛りたてていく。

合併を契機に観光地間の連携も必要である。

鳴子町内の地域活動や事業活動をうまく連携させ、将来の地域像を見すえ、鳴子町、大崎市、下流域と広がりを持たせるビジョンづくりが必要である。

来訪者との交流するスタイルを観光的な視点でとらえ、ものごとに取り組んでいく。

水源地域の自治や社会活動の維持。高齢化や過疎化への対応が必要である。

鬼首 古川の交流(買い物なども含む)は多いが古川 鬼首の交流は少ないので、相互の交流をつくれないうらうか。

鳴子ダム水源地域ビジョンづくりを新聞やテレビ番組で報道してもらい、広くPRしていく。

水源地域(鳴子町)は地域活動や資源が豊富なことによりビジョンの方向性はみえてきたが、中下流とのかかわりや、つながりを示していくことが必要である。

ダムがなかった時の状況を下流地域に説明する場を計画しており、そのような活動を行いながらビジョンづくりを下流から応援していきたい。

水源地域の原風景の維持

国道沿いの標識や看板などのサインを統一(色彩・形状など)する。

川やダムのことを知る環境づくり(川に親しむなど)を行う。

今後の委員会運営

鳴子町在住の委員を中心に専門委員会を設置し、地域活動や、連携交流の方向性を検討していく。

(3) 専門検討会の意見のまとめ

1) 第 1 回専門検討会 (平成 17 年 7 月 29 日 (金)) での意見

鳴子ならではのグリーンツーリズムをたちあげ・観光と連携

- ・ 農業・観光相互の交流を図り、グリーンツーリズムと温泉宿泊などを組み合わせていく。
- ・ 鳴子ならではのグリーンツーリズムのあり方 (旅館との連携など) を築いていく。
- ・ 旅館と農林業の連携 (地場食材の提供など) のための環境をつくる。
- ・ 旅館のニーズ (需要) と農林業のシーズ (供給) を調整し流通ルートをつくる。
- ・ 農業 + 観光の新しい産業の創出を図る。

鬼首中学校の今後を考える

- ・ 今後のあり方について広く意見交換する。
- ・ 利用するか否かをはっきりさせ、利用するのであれば、その目的や内容をアピールする。
- ・ 今後を検討する「組織」を立ち上げ、行政と協働してその方向を探る。
- ・ 山村留学、山学校として蔓 (つる) 編みや田んぼ、畑を利用した活動をする。
- ・ 地域が熱意を持って取り組む。

地域食材を使った取り組みを

- ・ 地元の食材 (ブルベリー、蕎麦、料理人対決) を使って何かをしかけビジョンに反映させていく。
- ・ 湯治客の健康食材パックで旅館と農産業者の連携を図り地域食材を利用する。
- ・ 県内一美味しい豚肉をブランドに。

江合川・ダム湖の活用

- ・ 初心者でも安心して楽しめる溪流釣りのゾーンをつくる。
- ・ 鬼首独自の釣りの形態 (発眼卵放流、釣り場スポット) 等を展開する。

鳴子ダム水源地域ビジョンの骨子案

- ・ 基本理念は専門検討会で論議して、鳴子ダム水源地域ビジョンがわかる表現、アピールできる表現としていく。
- ・ 地域資源を全て均等に利用するというのではなく、強弱をつけて取り組む。
- ・ 大崎市における鳴子、水源地域というポジションを明確にする。
- ・ 計画づくりも重要だが、展開していくことがさらに重要である。
- ・ 活動が縛られないような組織づくりも必要。

交流と連携の仕組みづくり

- ・ 地域活動者相互の連携をとる。
- ・ 地域の代表者としての役割、活動状況に応じた取り組みなど、横断的な連携を図る。
- ・ 交流と連携については、町内外活動者相互の連携以外に、地域外の人に応援団となって参加しても

らうという形態もある。

江合川上下流の連携を

- ・水源地域は上流側のみならず江合川流域全体の共有の財産であり、その意識をもった取り組みが必要。
- ・上流と下流が共有できるプログラムをビジョンに取り入れる。いろいろな方に応援団として参加してもらおう。
- ・交流・連携では、下流地域の特徴（岩出山の歴史的文化的風土や古川の農業など）とも関連づけられる内容を盛り込む。

広報や情報発信について

- ・鳴子温泉駅にインフォメーションコーナーを設置し、一目で情報がわかるようなしかけを作る。
- ・コーナーには、各観光地やグリーンツーリズムなどの旬の情報を書き込む。連携も密にとる。
- ・流域内外の拠点からも情報を発信する。（岩出山の道の駅、鬼っ子など）
- ・情報発信の一元化や、発信する母体が全ての情報を把握する。
- ・かわら版は継続して発行していく。
- ・鳴子ダム管理所の仕事をPRする。
- ・鳴子ダム水源地域ビジョンを町の広報誌でも紹介する。
- ・ホームページ相互にリンクを張り情報の一元化を図る。

2) 第2回専門検討会(平成17年10月6日(木))での意見

(1) 鳴子ダム水源地域ビジョンの基本理念

- ・基本理念にある「鬼首」や「たゆとう」という表現は、専門検討会の意見を付し策定委員会に報告する。
- ・鳴子ダム水源地域ビジョンの水源地域は、江合川のみならず、大谷川や、温泉などの分布をとらえ現鳴子町の行政区域とする。

(2) ビジョンの推進について

1) 既存組織やそれぞれのつながりについて

- ・鳴子町内には既存の地域活動組織が多数あるので、さまざまな活動に関係している力のある組織とビジョンの推進のつながりをもつ。
- ・地域活動者の取り組みを尊重しあいビジョンの推進を図る。
- ・地域活動者も、関連する組織間で重複しており、新たに組織を立ち上げると活動が鈍る。

2) ビジョン推進の活動について

推進組織のあり方

- ・PRペーパーを旅館に設置するなど無理のない活動もある。
- ・それぞれの組織をコーディネートする組織づくりを行い一元的に情報発信する。
- ・一次産業、グリーンツーリズムなど情報を共有し連携しながら情報発信する。
- ・地域に開かれた活動と、若者が入りやすい組織づくりが必要。
- ・地域内外の交流のための接点(人、拠点)をつくる。

ビジョンの応援、推進による交流・連携

- ・地域の良さは意外に地域外の人々が気づくこともあり、地域外の意見を聞いたり、活動に参加してもらおう。
- ・地域内外の交流により、お互いのよさをわかちあう。
- ・水源地域は下流の人たちにとっても大事なもので、新大崎市誕生により、ビジョン推進の共通認識をもつ。
- ・ファンクラブやサポーターにビジョン推進を応援してもらおう。

3) 事務局などの運営

- ・多数の地域活動組織と調整する事務局の負担は大きい。
- ・担当の単一組織以外に、事務局との調整のもと各組織が連携して取り組む。
- ・推進する組織は、上流域から立ち上げてはどうか。

4) 地域を元気にするために

- ・地域の良さを再発見して、地域に誇りを持ち、地域を元気にしていく。
- ・地域の人々に活動に参加してもらい、地域づくりにふれ、地域の良さを知ってもらおう。
- ・地域づくりは、住んでいる人が主体となって、ゆったりとした気持ちで活動する。

- ・ふだんから参加できるような仕組みをつくる。
- ・地域が意識を共有し、合併の1市6町の7色の虹の一色をつくる意識で地域づくりに取り組む。
- ・鳴子町民がもつ「つきあい（おもてなし）能力」をうまく地域づくりに活かしていく。
- ・鬼首中学校の廃校利用など地域づくりの意識に気づき、その仕組みづくりを考える。

（3）その他

- ・荒雄川神社祭典で理想的な地域像がみえる。
- ・イベントの開催は単一ではなくストーリー性のあるものとし、引っ張れる魅力を創る。

3) 第3回専門検討会(平成17年11月9日(水))での意見

(1) 鳴子ダム水源地域ビジョンの基本理念など

- ・基本理念は、修正案によりわかりやすくなった。
- ・専門検討会での案としては、これでよろしい。
- ・鳴子ダム水源地域ビジョンでは、鳴子町や鬼首地区の地域のありようについて議論されているが、これをうまく「大崎市におけるビジョン」につなげていければよい。

(2) ビジョンの推進などについて

1) ビジョン推進の活動について

ビジョン推進活動に取り組む考え

- ・自分のまちの資源、いいところを発見し、自分たちの魅力を知ると次の展開が見えてくる。
- ・鳴子町内は観光に携わる人が多く週末はあまり時間を割けないので、何らかのかたちで参加できる仕組みが必要。
- ・地域がもっと関わって、ゆっくりでもきちっと地に足をつけて進めていく。
- ・観光協会、商工会をはじめさまざまな組織が現存するが、水源地域ビジョンをテーマとした推進体制や、相互の活動連携が望ましい。

交流・連携

- ・地域と来訪者が交流できる仕組みづくりがあればよい。
- ・来てよかった。住んでいてよかった。という「よかった」を共有できればよい。
- ・それぞれの組織が独自に活動をしているが、組織間の連携までには至っていない。

ファンクラブ・サポーターについて

- ・水源地域のファンクラブやサポーターということで、かわら版などによりファンクラブやサポーターに情報発信し、鳴子地域に興味を持ってもらい、さまざまなイベントなどに参加していただく。

鳴子ダムのかかわり

- ・鳴子ダム竣工50周年を期にインパクトのある動きをしてはどうか。
- ・鳴子ダムをアピールするもの(映像、絵本など)を作ったり、ダム記念誌の取り組みをしてほしい。
- ・鳴子ダムの職員は、異動後も鳴子のファンクラブ・サポーターとして活動してほしい。
- ・ダムを守っている管理所の活動をアピールしてはどうか。

2) 事務局などの運営

- ・事務局が立ち上がっても地域が主体に取り組まないと活動が定着しない。
- ・鳴子ダム管理所が支援してもらえるのは心強いが、活動は地域が主体となって取り組む。
- ・人と人との交流がエネルギーになるような事務局のあり方が望ましい。

- ・事務局はネットワーク型（各組織間の連携型）が望ましい。
- ・活動を継承していく上でも子ども達にも参加してもらう。そのため、学校や先生にも活動に参加してもらえればよい。
- ・事務局は「学校スタイル」として、例えば鬼首中学校を「大崎水の学校」や「地域づくり学校」として拠点化してはどうか。

3) 広報について

- ・鳴子町は外向きの広報については活発に行われているが、内向き（鳴子町内）にうまく情報が伝わっているか、内向きの連携に貢献しているかは、まだ不十分なところがある。
- ・マスコミの影響力は高いが、マスコミの発信する情報と地元の意識が伴っていない。
- ・ダムは水を貯める。地域は情報や暮らし、文化を貯める。それを放流（情報発信）する。
- ・かわら版は、お年寄りや小・中学生にも分かりやすい内容にする。

4) 水源地域と大崎市合併

大崎市合併

- ・大崎市合併により「鳴子町の鳴子ダム」、「鳴子町の鳴子温泉」から「大崎市の鳴子ダム」、「大崎市の鳴子温泉」となる。
- ・大崎市の人が、鳴子のことをよく知り、鳴子の人也大崎市のことをよく知り、お互いの情報や体験を共有することが必要である。
- ・合併により鳴子町役場は鳴子支所となる。鬼首、中山平、鳴子、東鳴子、川渡の5地区に地域自治組織が発足する。
- ・合併に伴い現鳴子町役場の規模は150人から50人程度に職員が少なくなり、行政との距離感が遠くなる。
- ・鳴子町の第三セクター（ブルワリー、リゾートシステム）の今後のあり方
鬼首地区のあり方
- ・廃校となる鬼首中学校の利用
- ・人口減少、農地の荒廃などへの対応
- ・ホテル業者の開発計画に対する対応

(3) その他

- ・釜房ダム水源地域ビジョンの推進組織「100年ビジョンかわさき」の運営についてヒアリングする。
- ・四国地方にある(株)四万十ドラマについて情報収集する。

(4) 鳴子ダム水源地域ビジョン策定委員会専門検討会

分類	分野	氏名	所属
学識経験者		志賀 秀一	(株)東北地域環境研究室 代表
		吉川 由美	(有)ダハ プランニングワーク 代表取締役
地域団体	鳴子町観光関係	阿部 俊一	鳴子町観光協会 事務局長
		遊佐由起子	鳴子町商工会 女性部 副会長
	鳴子町住民	高橋英理子	レンダラー
	地域活動者	後藤 錦信	鬼首農地開発農業振興組合 組合長
		板垣 幸寿	鳴子町石の梅町づくり創造研究会 / 鳴子・楽郷の会代表
		向田 晃	(株)鬼首リゾートシステム 取締役支配人
	鳴子町関係	大沼 幸男	鳴子町中央公民館 主幹
学校関係		岸 澄夫	鳴子町立中山小学校 校長
関係機関	荒雄湖整備協会	高橋 義雄	鳴子漁業協同組合 理事
行政機関	自治体	大山 誠一	鳴子町観光農林課 課長補佐

(順不同、敬称略)